

ネットワークの強化

地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献する
より安全で、使いやすいネットワークへ



新規建設

ひと、モノ、未来をつなぐ



道路名	区間名	建設中延長
① 新名神高速道路	大津JCT～城陽JCT・IC	25.1km
	八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC	10.7km
② 神戸西バイパス(第二神明道路北線)	永井谷JCT～石ヶ谷JCT	6.9km
③ 大和北道路(京奈和道)	奈良IC～郡山下ツ道JCT、奈良北IC～奈良IC	12.4km
④ 淀川左岸線延伸部	門真JCT～門真西IC	1.1km

※IC名及びJCT名は仮称を含みます。

国土軸のダブルネットワーク化

—新名神高速道路—

現在、私たちが利用している名神高速道路は、開通以来、日本の東西を結ぶ基幹的な役割を果たす高速道路として、産業・経済・文化の急速な発展に多くの貢献をしてきました。

しかしながら、現在は交通量の増加による交通混雑が頻繁に発生しています。また、巨大な産業・経済のほとんどが自動車交通に依存しているため、それを支える役割が断絶した場合、国民生活への影響は壊滅的ともいえる状況になると予測されます。

これらを緩和するためにも、人・モノの流れを支える国土軸のダブルネットワークとして、新名神高速道路の整備を進めています。



城陽高架橋 富野工事付近上空から城陽JCT・IC方面(西)を望む

新名神高速道路
特設サイト



開通 播磨道 (播磨新宮IC～宍粟JCT)



開通式典



2022年
3月12日
開通

開通 徳島南部道 (徳島JCT～徳島沖洲IC)



吉野川サンライズ大橋



2022年
3月21日
開通

東九州道 (北九州市～宮崎市) の開通効果

2016年4月24日、東九州道 椎田南IC～豊前ICが開通し、北九州市から宮崎市までの高速道路が南北に1本でつながりました。開通からおよそ5年間で、企業立地や物流など、様々な開通効果が沿線において現れています。

社会インフラとしての高速道路の重要性を認識し、地域とともに発展する高速道路を目指して、これからも着実にネットワークの整備を進めていきます。

九州道×東九州道 ダブルネットワーク化

- 地域経済を支える企業が續々進出
約1,200企業が進出、約9,800億円を新規投資(2009年以降)
- 港湾との連結によりトラックドライバーの労働改善に寄与
大分港と清水港(静岡県)をRORO船で結ぶ、新たな物流ルートを形成
※RORO船: 貨物を積んだシャーシ(荷台)を輸送する船舶
- 九州経済を牽引する自動車関連企業の進出
137件の自動車関連企業が進出し、自動車関連部品の出荷額が約2.1倍に増加(2009年比)
- 地域特性を活かしたフードビジネスの活性化
日豊海岸沿線に地元産魚介類をPRする食のイベントが集積「東九州伊勢えび海道」では実食数約2.2倍に増加(2012年比)
- 沿線市町の経済が活性化し、税収が増加
沿線25市町中20市町で税収が増加(2016年比)
- 大規模災害時のリダンダンシーを確保
九州のダブルネットワーク化により災害時のリダンダンシーを確保

